

## 次世代人文社会学育成プログラム Program for Evolving Humanities and Sociology

文学部・人文社会系研究科では、2010年から「次世代人文社会学育成プログラム」を開始しました。これは日本学術振興会の「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」に採択されたことを受け、向こう3年間におよそ98名の学部学生、大学院生、若手研究者を世界各地の大学や研究機関に派遣しようというプログラムです。選考を経て採択された応募者には、渡航費と滞在費が支給されます。これまで文学部・人文社会系研究科が海外に派遣することのできる学生はきわめて限られていましたが、これによって東アジア、ヨーロッパ、北米地域への留学や研修の可能性が大きく開かれます。

文学部・人文社会系研究科はもとより多言語・多文化・多社会を研究対象としていますが、多様な文化の共存が全地球的な課題となっている現在、このような人文社会学はますますその重要性を増しています。本プログラムは、豊かな人文社会知を備え、言語や国境、文化的な背景のちがいを越えて交流と発信ができる人材を育成することを目標としています。これは濱田総長の提唱される「タフな東大生」育成計画の一環をなすとともに、文学部・人文社会系研究科の策定した国際化推進長期構想にも沿ったものです。皆さんの積極的な応募と意欲的な研究計画を期待しています。

### 概要：

- ・学部生：研究言語の研鑽や基礎知識・方法の習得を目的とした短期の派遣を原則とし、本学との交流協定あるいは推薦プログラムに従って研修を行う学生を優先する。派遣期間は原則としておよそ3週間。
- ・大学院生：本プログラムによる海外研修・調査が、修士論文あるいは博士論文の作成に資することが明確に書かれた研究計画を優先する。派遣期間は2～3ヶ月、本学との交流協定に従って研修を行う学生を優先する。
- ・ポスドク（本研究科博士課程修了者および単位取得満期退学者）・助教：これまでの研究業績に加えて、次世代人文社会学への貢献を重視する。すなわち、人文社会学に奥行きと広がりを与え、他の専門分野にも刺激を与えるような、意欲的な研究計画を優先する。派遣期間は原則として2ヶ月以上、1年以内。応募にあたっては本学教員2名の推薦状を要するが、推薦者の専門分野の別は問わない。
- ・応募条件：申請者は、応募の時点で満42歳以下であること。

・選考にあたっては、以上その他、特定の専門分野や派遣地域に偏らないように、全体のバランスを考慮する。

・派遣後の義務：本プログラム専用のホームページ上で研修・調査の成果を報告し、新規派遣生のための説明会や成果報告会に出席すること。ポスドク以上の場合は、次世代人文学研究センターの客員研究員として、次世代人文学コロキアム（仮称）の運営にあたること。

・今年度夏学期の募集締め切り

推奨プログラム（韓国、フランス）：4月22日午前11:00（詳細は、各プログラムの募集ページを参照）

個人派遣：5月31日午前11:00を予定。詳細は近日中にホームページ上に公開

このプログラムの詳細については、近日中に学内に掲示あるいはホームページ上に掲載される関係情報を参照して下さい。